

【全体概要】

将来予想される気候変動にも対応できる次世代の温州みかん栽培技術体系の確立に向け、気象観測装置(KOSENウェザーステーション)及びデータ駆動型かん水システムの連動による根域制限栽培体系のモデル実証を行う。

新品種・新技術等の概要

根域制限栽培と気象観測装置のクラウドデータと連携して駆動するマイクロスプリンクラー及び点滴かん水装置を組み合わせることで、厳しい気象条件下においても、その影響を最小限にとどめて、安定的に高品質果実生産が実現できる温州みかん露地栽培体系を確立する。

マイクロスプリンクラー

根域制限栽培

KOSENウェザーステーション

実施体制図

紀州地域農業改良普及センターが中心となり、農業経営者、県研究機関、県市町行政担当課、実需者との連携を図りながら、関係機関間の調整や事業進行管理を行う。実需者はJA伊勢、JA全農みえを想定する。
技術指導において、農業革新支援専門員と連携する。

三重県 関係機関の総合調整、栽培指導

農業経営者
JA温州部会

栽培技術確立

市町協議会
営農連絡会

生産振興・事業対応

JA伊勢
JA全農みえ

生産販売対応

主な取組内容

- 技術体系実効性等調査（調査内容：葉色調査、その他生育調査、他府県事例及び栽培状況調査等）
- 現地実証圃の設置（根域制限栽培1戸10aで環境データ収集開始、マイクロスプリンクラー・点滴かん水装置の設置）
- 実需者(JA全農みえ、JA伊勢)を交えて技術体系に関する検討会を開催

課題と今後の対応

初年度に引き続き環境データのクラウド上への収集、各調査の実施、自動制御プログラムの実証を行う。また、新技術の有効性、実用性について、現地検討会等の機会を通じて、農業経営者、実需者と意見交換を行い、意向・ニーズを吸い上げる。実証結果を基に、極早生温州根域制限栽培自動かん水管理の手引き(マニュアル)を作成し、柑橘農業経営者組織等と共有する。